

BASE Vol.106

実践的基礎知識 ポートフォリオ特性の確認編(7)
 <流動性のチェック>

2019/12/12

流動性のチェック

流動性リスクとは、市場規模や取引量が小さい場合や市場混乱時など買い手が少なくなった場合に、①換金したい時に換金できない、②換金したい量に対し需要が少なく一部しか換金できない、③買い手が少なく大幅な値引きをしなくては換金ができない、といったことが起こるリスクのことです。

流動性リスクとは？

小さな市場にまとまった資金が流入にすることで価格がかさ上げされて大きく値上がりしている場合、ひとたび資金流出に転じると大きく値下がりする可能性があります。こうした現象の起きやすさは、「流動性リスク」という言葉で表現されます。市場規模と比べてファンドの純資産総額が大き過ぎるファンドは「流動性リスク」を大きなリスクとして抱えている可能性があります。

流動性リスクとは、市場規模や取引量が小さい場合や市場混乱時など買い手が少なくなった場合に、①換金したい時に換金できない、②換金したい量に対し需要が少なく一部しか換金できない、③買い手が少なく大幅な値引きをしなくては換金ができない、といったことが起こるリスクのことです。

流動性リスクは、市場規模が小さいほど大きくなり、市場規模と比べて大きな資金を運用する投資家が存在するほど大きくなり、買い手が偏るほど大きくなります。つまり、市場規模を把握することで、ある程度流動性リスクの大きさを把握することができます。

図表1:流動性リスク

流動性リスク	
	①換金したい時に換金できない
	②換金したい量に対し需要が少なく一部しか換金できない
	③買い手が少なく大幅な値引きをしなくては換金できない

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

流動性リスクの確認方法

各市場の大きさと流動性リスクを知るために代表的な指標となるのが時価総額と売買代金です。

時価総額というのは、その時の時価で全株式を買うために必要な金額、売買代金というのは1日に成立した売買取引の総合計金額のことです。

流動性の比較

世界最大のREIT市場である米国REITの時価総額は、2008年以降に大きく増えて110兆円レベルになりました。一方で1日の売買代金は1,000～3,000億円程度と、米国株式市場と比べて小さく、価格が大きく上下しやすくなってしまいます。

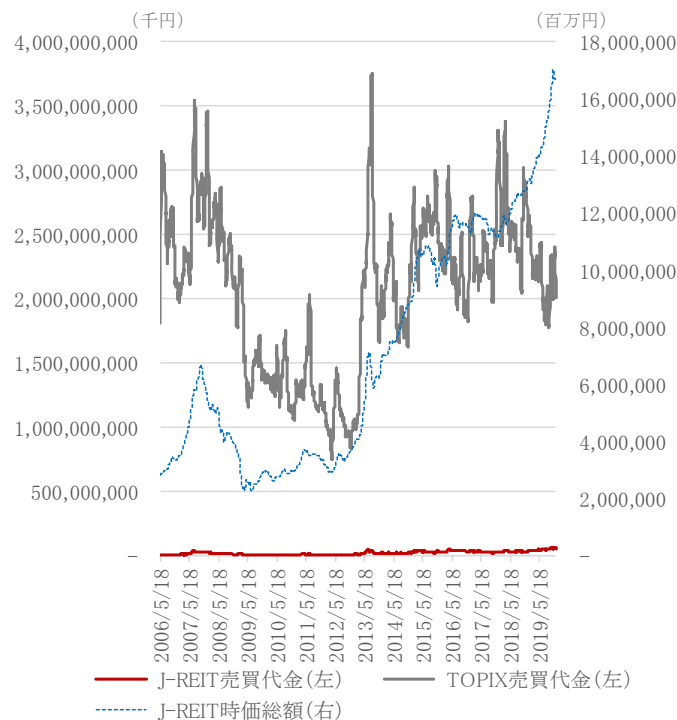
J-REITも時価総額で見ると2008年以降に大きく増加して17兆円程度ですが、1日の売買代金は数百億円規模と小さく、日本株市場と比べて流動性が乏しいことがわかります(図表2)。

図表2: 日米REIT市場の時価総額と取引額の推移

米国REITの時価総額と米国REIT、米国株式の売買代金の推移(日次、期間:2006年5月18日～2019年12月10日)



J-REITの時価総額とJ-REIT、日本株式の売買代金の推移(日次、期間:2006年1月4日～2019年12月10日)



データは過去の実績であり、**将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。**

MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

米国REIT:MSCI米国REIT指数、米国株式:MSCI米国インデックス

J-REIT:東証REIT指数、日本株式:東証株価指数

出所:ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成